

# 第30回医療スタッフ のための感染対策セミナー

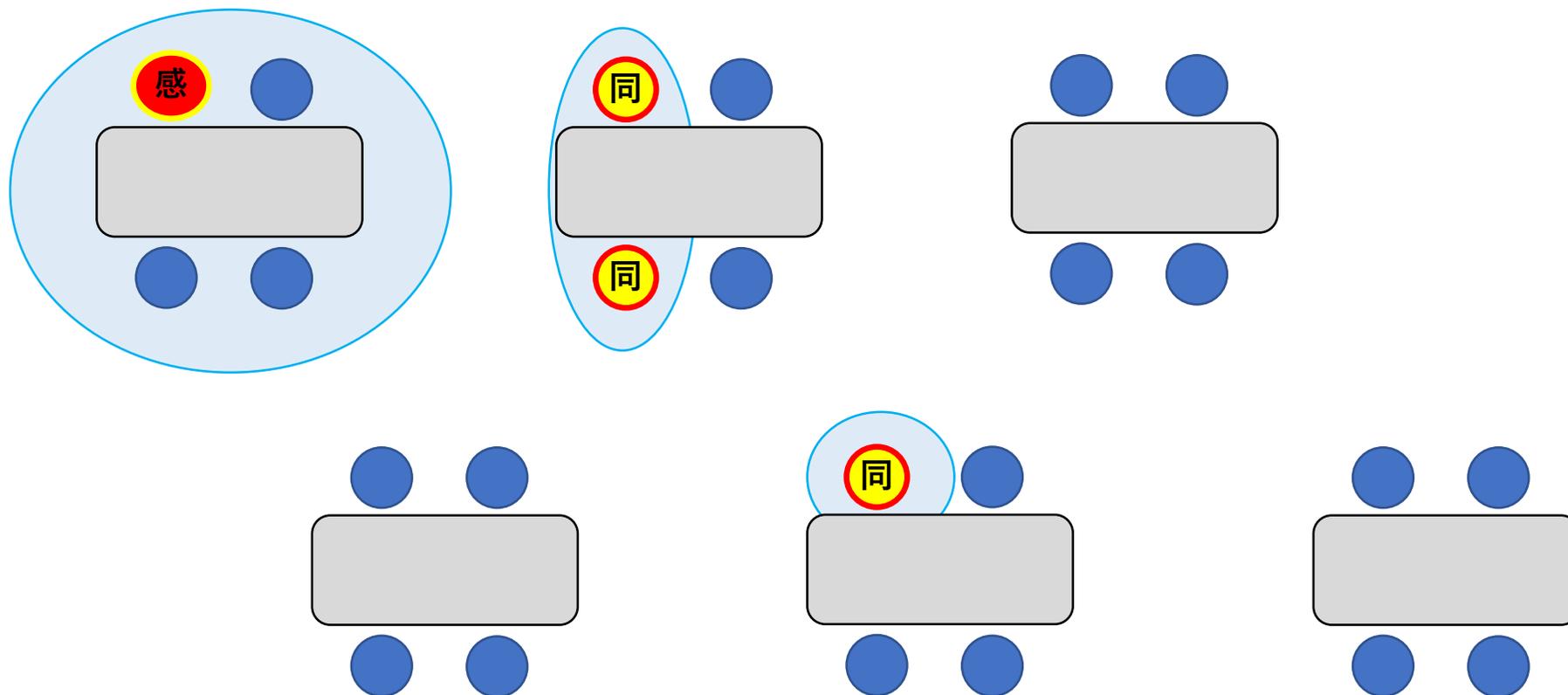
## Q&Aコーナー

## 【質問】 A病院 看護師さんからのご質問

タミフルの予防投与について、精神科療養病棟です。  
マスクは出来る方と出来ない方がいます。インフル発症時に同室者と同じ席で食事をする方に与薬を開始し急な拡大はなかったものの、飛び飛びに感染し、予防投与が終了した患者が感染するなどがあり、どのようにされているのかを教えてください。  
1名が治癒すると他の方が発症し、6名発症して終息するのに1か月かかりました。

# 質問ご施設の状況予想図

● 感染者 ● 同室者 ○ 予防投与



(回答) 塾長 伊藤重彦

- ・ 予防投与の運命：予防投与は服用している期間だけしか効果がないので、服用中止後一定期間予防が持続することはありません。その点を理解して集団予防することが重要です。
- ・ 発病者の同室者（発病していない場合）の予防投与はメリットがあります。
- ・ 発病していない同室者の潜伏期間はまちまちですので、予防投与期間5～10日間ののちに、予薬中止後に発病することがありますので注意が必要です。
- ・ 発病していない同室者（A群）と同席の入所者（B群）の予防投与は、A群とB群が同じ日から服用し、同じ日に中止する場合に限って、その期間の感染予防において、効果が比較的期待出来ます。
- ・ 投与開始日と中止日がばらばらの集団では、感染のコントロールは困難です。
- ・ 服用終了時期がばらばらとなる予防投与スケジュールは感染防止効果が少ないと考えてください。
- ・ 原則、発病していない同室者（A群）と一緒にするために他の入所者へ予防投与することはやめて、A群も5日程度（この期間で発病するはず）は別の場所で食事介助することができるとベストだと考えます。